

スケートリンクの作り方

円山スケート場は、冷却装置を使っておらず、すべて人の手で昔ながらの伝統を引き継いだ方法で作っております。

おおよそ、**50センチ以上**雪が降り積もるのを待ってから、トラクターで雪を踏み土台を作ります。



どうして雪が必要なの？

円山陸上競技場の芝生の上にリンクを作っているため、雪でクッションを作らなければ氷で芝生がダメになってしまうからです



何度もトラクターで踏み固めた雪の上で、「トバカン」と呼ばれる木製の手作りそりに職員が重石代わりに乗り、トラクターで引っ張りつつコースを周回し、雪を固めます。



踏み固めた雪を平らにするため、「**定規**」と呼ばれる角材で作った木製のそりにまたまた職員が重石代わりに乗り、コースを回り平らにしていきます。



ある程度雪を踏み固め、土台ができれば

天気予報で雪が降らなく、 -4°C 以下になる時間帯を目掛け、深夜に水を撒きます。

多い時には、天気や気温により5~6回ほど水を撒きます。



冷却装置がないから
気温が高くなれば水を撒いても
氷が解けちゃうよ！



氷が厚くなれば完成！



リンク内の除雪は「板ジョンバ」と呼ばれる除雪道具と竹ぼうきで行います。

また、リンクに積もった雪や開放中の中間整備では、

市電のササラ電車と同様のササラブラシを取り付けたトラクターで整備を行います。

